



東北防衛局広報紙
(東北6県の防衛に関する情報誌)

東北のかなめ

(第4号)

平成20年7月24日発行

(緊急掲載)

岩手・宮城内陸地震 (自衛隊災害派遣等)

特集 米軍車力通信所隊長の交代

- ・職員研修の実施 (自衛隊協力課長)
- ・調達部ってこんなとこ (調達計画課の紹介)
- ・周辺対策補助金等実施計画 (平成20年度)
- ・職場を紹介します (若手職員から)
- ・海上自衛隊 大湊地方隊 (東北の自衛隊等)
- ・「東北の寄り道」 高山外国人避暑地
- ・防衛問題セミナー開催のお知らせ

12 11 10 9 9 8 5 6 2
7 4



(菖蒲田浜：宮城県)

宮城県七ヶ浜町の菖蒲田浜は、小豆浜から眺望岬までの湾曲した長い砂浜です。明治21年に海水浴場として東北で初めて開設した歴史のある海水浴場です。

(岩手・宮城内陸地震)



被災建物の状況確認
(東北防衛局技術職員)



感謝のメッセージ



自衛隊の救出活動



防衛省東北防衛局編集委員会編集発行
宮城県仙台市宮城野区五輪1丁目3-15
TEL 022-297-8208
ホームページ <http://www.mod.go.jp/rdb/tohoku/>

城内陸地震

東北防衛局の技術支援



△ 懸命な救出活動 (行者の滝)

この地震で岩手県奥州市、宮城県栗原市で震度6強、岩手、宮城、秋田の三県でも震度5強以上を観測しました。栗駒山付近で大規模な山崩れや地滑り、土石流が発生し、国道

自衛隊の災害派遣活動等
平成20年6月14日(土) 午前8時43分頃、岩手県内陸南部を震源とするマグニチュード7.2の強い地震が発生。



△ 荒砥沢ダム北側の崩落

6月14日(土) 8時43分頃、岩手県内陸南部においてM7.2の強い地震が発生。岩手県奥州市や宮城県栗原市では震度6強を観測した。この地震により被害に遭われた住民等の救出活動等のため自衛隊の災害派遣活動が行われました。また、東北防衛局においても、自衛隊の救出作業等への技術的支援が行われました。

△ 祭時大橋の崩落



△ 被災した旅館(駒の湯温泉)

に架かる大きな橋も崩落。家屋の破損400棟以上、死者12人、行方不明者10人、負傷者約350人となっています。

自衛隊は、地震発生と同時に陸上自衛隊東北方面隊の第6師団(神町)、第9師団(青森)、海上自衛隊の第2航空群(八戸)、航空自衛隊の松島・秋田救難隊等が被害状況等の情報収集を開始。10時50分に岩手県、11時に宮



△ 孤立した被災者の救出

東北防衛局の技術支援

東北防衛局は、6月14日の地震発生直後から担当職員が出動し、当局の全職員の安否、防衛施設や建設工事中の建物等の被害状況の確認作業を実施。また、東北方面総監部を通じて、自衛隊の災害派遣状況等に係る情報収集等を行うと共に、災害派遣活動に係る当局への支援等要望の調整を開始しました。

6月17日、当局は、栗原市に設置された第6師団前方指揮所等に河村総務



△ 部隊から被災状況の確認

部長、堀部防衛補佐官他3名の職員を派遣。被災状況の確認と派遣部隊との意見交換を行った結果、予断を許さない状況でしたが、今後、事態の推移によつては専門的・技術的なアドバイスが必要となる可能性が示されました。

緊急掲載：

岩手・宮

— 自衛隊災害派遣と



△ 被災建物からの救出活動 (駒の湯温泉)

入浴等の生活支援活動を展開し、被災した家屋や各地区毎の避難所での不自由な生活を支援しました。



△ 小型ドーザーのヘリ輸送

城県から災害派遣要請を受け、道路が寸断され進出が困難な状況の中、各部隊が被災現場に急行し、二次災害の危険と隣り合わせでの懸命な行方不明者の捜索、航空機による孤立した被災者の救出

等人命救助、リモコン付施設器材を使用した道路啓開等の災害派遣活動を行いました。
また、早い時期から給水、給食及び



△ 給水支援活動

そのような中、6月22日、宮城県知事からの行方不明者捜索の終了要請を受け自衛隊の捜索活動は終了しましたが、引き続き、給水、入浴及び医療等の生活支援に係る災害派遣活動は継続されています。
6月29日現在、派遣規模は累計で人員約2万人、車両等約6,000両、航空機約400機、民生支援給水約450t、給食約8,500食、入浴約4,700人を数えています。



△ 地元住民から感謝の言葉



△ 入浴支援活動



△ 撤去作業等の打ち合わせ

このことから、6月20日、自衛隊の人命救助及び復旧作業に対して技術面での支援及び助言を行うため、局内に「東北防衛局技術支援チーム」を設置し、同日から土木、建築の技術職員4名を現地に派遣しました。
当該「技術支援チーム」による支援活動については、23日までの四日間延べ20名の技術職員を派遣して、常時技術面の助言を提供できる態勢を構築し、被災建物の解体方法(屋根の撤去等)などについて技術的なアドバイスを実施したところと

▽ 部隊からの被災状況説明



技術支援要員
(土木課長) 談

6月20日正午頃、東北防衛局の技術支援要員は、第6師団の前方指揮所に到着後直ぐ、陸上自衛隊のヘリコプターで「駒の湯温泉」の搜索現場に向かいました。ヘリコプターを降り、長い坂道を下りきったところで、目の前に土石流で埋め尽くされた広大な平場、その左隅に壊れた建物の姿が飛び込んできました、思わず息を飲んでしまいました。



△ 被災状況の確認 (駒の湯温泉)

現場指揮官から被災の状況説明を受けた。被災建物を見て回りました。地震の猛威の前に唾然とするしかありませんでした。その被災建物の周囲では、敷板で足元を確保しながら、必死にバケツでぬかるんだ土砂をすくい出し、行方不明者の搜索を懸命に行う自衛隊員の姿がありました。

現場から前方指揮所に戻ると、更なる

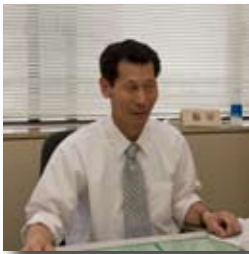
搜索手法として、屋根撤去、排水管布設、重機投入等が話し合われていました。

まさに我々技術支援要員の出番です。自衛隊側から作業計画の概要・意図を聴き、それに対する技術的な観点から助言等を行い、相互に安全で確実な作業手順及び留意事項を確認することができました。

翌日早朝、現地指揮官は撤去作業等を実施に移行。小雨が降る生憎の天候の中、自衛隊員の必死の活動が続けられ、22日の夕方には、無事に撤去作業等が終了しました。

今回、自衛隊の災害救助活動への技術支援に参加して、東北防衛局としても日頃の業務で培った専門知識等が、緊迫する災害の現場に活かされることを経験できました。また、普段から方が一の事態を想定した、組織力としての専門知識に応じた貢献等について検討しておくことは非常に重要であると痛感しました。

最後に、この地震でお亡くなりになられた方々のご冥福と、いまだ行方不明の方々の早期救出をお祈りすると共に、被災地の早期復興を心よりお祈り申し上げます。



(荒船土木課長)

横須賀地方隊の艦艇が

仙台塩釜港・石巻港に来るよ!

平成20年度
海上自衛隊 横須賀地方隊展示訓練

体験航海 (訓練展示あり)	8/9(土) 10:00~15:00	8/10(日) —
体験航海 (訓練展示なし)	—	① 10:00~11:30 ② 14:00~15:30
一般公開	16:00~18:00	09:00~16:00

場所 仙台塩釜港・石巻港
*仙台塩釜港

お問い合わせ
海上自衛隊横須賀地方総監部 広報係
046-822-3500(内線2208)
http://www.mod.go.jp/msdf/yokosuka/
(詳しくは横須賀地方隊ホームページをご覧ください)

8月9日(土)、10日(日)の二日間、仙台塩釜港と石巻港で、横須賀地方隊の艦艇による展示訓練が行われます。詳しいお問い合わせは、海上自衛隊横須賀地方総監部広報係(046-822-3500、内線2208)にお尋ねください。

なお、上記のポスターを横須賀地方隊HP又は東北防衛局HPに掲載しています。ご覧ください。

横須賀地方隊ホームページ <http://www.mod.go.jp/msdf/yokosuka/>
東北防衛局ホームページ <http://www.mod.go.jp/rdb/tohoku/>

職員研修の実施



知識・知見を習得する一環として、6月12日(木)、防衛省の芹澤日米防衛協力課長をお招きして、当局職員等に対して「日本の防衛政策」と題する講義が行われました。

講義内容は、「基本的防衛政策」、「日米同盟」及び「ケース・スタディー」の3項目。

まずは、「基本的防衛政策」として、防衛政策の基本的な事項である①国防の基本方針、②日本国憲法、③集団的自衛権に関する概説の後、メインテーマである「日米同盟」として、①日米安全保障条約、②防衛計画の大綱、③日米防衛協力のための指針の観点から、わが国の防衛政策における日米安保の重要性と意義について説明があり、更には、①冷戦期、②冷戦後、③2001.9.11の三時期に区分の上、国際情勢の変化を踏まえながら日米同盟関係の変遷を日本側視点と米側視点を通して解説していただきました。

「ケース・スタディー」として①在日米軍再編、②在日米軍駐留経費負担、③クラスター弾と、より当局の業務に馴染みのある政策や時事的な政策について、理想と現実の狭間に垣間見える問題点に焦点を当てながら解説していただきました。

このことから、東北防衛局の職員が「防衛政策」等全般に係る



(芹澤日米防衛協力課長)

講話後の質疑応答において、参加職員からの「米国等の諸外国と交渉する際のポイント」、「国連の役割」、「米国と英国の国際政策の相違点」などの質問に対し、経験談を交えながら分かりやすく丁寧に回答していただき、約二時間の講義を終了しました。

東北防衛局としては、これまでも総務部長、防衛補佐官、東北方面総監部関係課長等を講師とした各種研修を実施していますが、職員が地方防衛局の一員として防衛政策の理解を深めることを目的として、今後ともこのような「職員研修」を継続して実施し、職員の更なる視野の拡大に努めたいと思います。そして、当局の職員一人一人が

研修の感想

防衛省の諸政策、各自衛隊の役割、任務や組織等を理解した上で、業務において地元の皆様と接触する機会において、防衛政策に係る話題の提供や説明を行えるよう鋭意努めて参ります。

防音対策課

橋本美枝

昨年9月の組織改編により防衛施設庁が廃止され防衛省と統合、「仙台防衛施設局」から「東北防衛局」となっても「名称が変わっただけ。」という思いが捨てきれず、また、地方局勤務しか経験のない私にとって、こういった機会は大変ありがたいものと思っています。

当局においては各種の研修が行われ聴講していますが、講義の内容も毎回、興味深いものがあり、今後もういった研修を色々なテーマで開催していただきたいと思います。



特集・米軍車力通信所隊長（ハンター大尉）の交代

今回は、6月24日付けで転任することとなった初代隊長ハンター大尉に、車力での勤務等を振り返ってもらいました。

―ハンター大尉へ

インタビュー―

○この度の任務終了のご感想は

車力通信所での任務を離れるに当たり、私は誇りに満ちた気持ち一杯です。

私のチームはリーダーサイトをゼロから起ち上げ、地域社会の一員となるべく懸命に働いてきました。そして車力での生活を大いに楽しみました。これまでに住んだどんな場所においても、これ程までに安全を感じ、そして平和と静けさを経験したことはありません。私達を友好的に受け入れて下さり、感謝しております。

○地元住民との交流等はどうか

地域社会との交流は楽しいものでした。

一般のアメリカ人にとっても参加することが難しい種々のイベントや活動に、私達は参加することができました。



初代隊長（ハンター大尉）

近隣の方々から私達に向けられた友情の大きさに、最も感謝しております。



後任者（ワイジング大尉）

○後任者に対してどういったことを伝えますか

ワイジング大尉、そして新たに当地に赴任する全てのアメリカ人に対する私のメッセージは、日本を楽しんで下さいということです。

安全にかつ責任感を持って仕事をしている限り、地元の方々を楽しみを分かち合えないことはありません。得ませんし、また、アメリカの広大な基地のように地元社会から分断されることなく、日本での生活を十分に経験する貴重な機会が得られるはずはです。

ハンター大尉の経歴

平成18年6月の車力分屯基地へのXバンドレーダー配備の責任者、そして同年9月に米軍車力通信所が創設されたときの初代隊長。

Xバンドレーダー

Xバンドの周波数帯を活用し、弾道ミサイルが飛来する可能性が高い空域を監視するものであり、アンテナ・ユニット及びエレクトロ・ユニット等で構成されている。



Xバンドレーダー（米軍車力通信所に配備）

つがる連絡会の開催

Xバンド・レーダー配備に係る連絡会が、平成20年6月13日、つがる市車力支所の会議室において開催されました。



本連絡会は、国、米軍、関係自治体、地域町内会代表、関係機関の協力の下に、日米の良好な関係の形成・維持に努めることを目的として、同レーダーが車力通信所に配備された平成18年6月に第1回目を開催して以来、今回で9回目の開催となります。

また、当該連絡会においては、米側から車力通信所の工事進捗状

況等の情報提供がなされ、また、日本側からは交通事故防止等についての要望等が行われるなど、相互に活発な意見交換が行われてきました。

今回の連絡会においては、米側から車力通信所の隊長が6月24日をもって交代することから、現隊長のハンター大尉と次期隊長のワイジング大尉、さらには、横田基地の対空ミサイル防衛部長のタウソ大佐が出席しました。

ハンター大尉は、通信所の任務終了に当たり、「誇りに満ちた気持ちで一杯です。私たちが友好的に受け入れていただき感謝します。」と関係者に感謝の意を述べました。



感謝状贈呈



酒井東北防衛局長は、平成20年6月18日、航空自衛隊車力分屯基地の講堂において、米軍車力通信所の隊長ハンター大尉がオーストラリアのパカパニエル砲兵学校の教官に転任することから、通信所初代隊長として地元自治体や住民との良好な関係の形成に尽力し、通信所の安定使用に寄与した同大尉の功績に対し、感謝状を贈呈しました。

贈呈式には、第21高射隊長太田2佐と第22高射隊長泉谷3佐も立会されました。

指揮権交代式

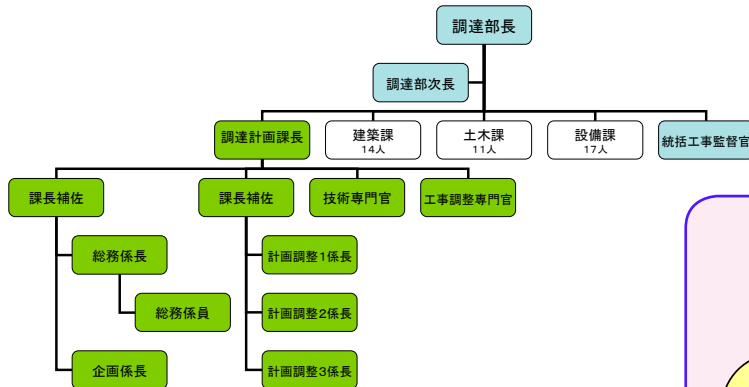
平成20年6月24日、米軍車力通信所の指揮権交代式が航空自衛隊車力分屯基地で行われ、ウイリアム・ハンター大尉に代わり、デイビット・ワイジング大尉が隊長に就任しました。車力分屯基地の体育館で行われた交代式には、米軍、自衛隊、それに福島つがる市長ら地元関係者の合わせて約60人が出席しました。

ワイジング大尉は、米オハイオ州出身でコロラド州の宇宙ミサイル防衛集団副部長からの転任で「前任者が築いた地域との関係を、これからも継続していきたい」と抱負を語っています。



調達部ってこんなところ！

調達部の組織と現員

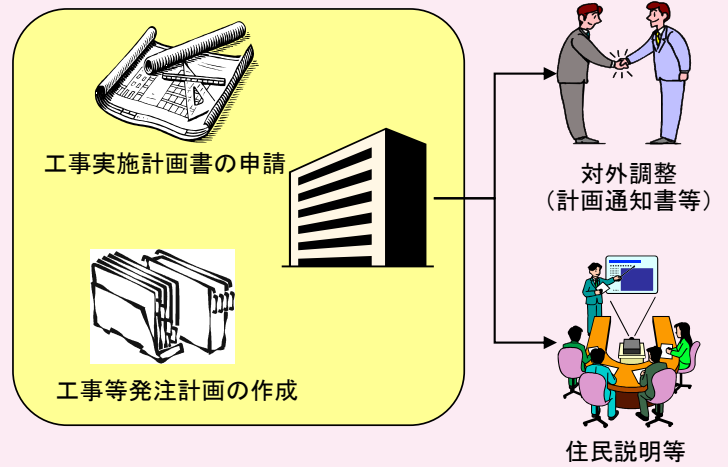


調達部は、主に自衛隊や在日米軍が使用するための防衛施設の建設や、米軍再編等関係工事や提供施設の管理・緩衝地帯の整備等工事を行っています。また、これらの施設を要求期日までに、機能的及び経済的に完成することを任務としています。

さて、今回は、昨年9月の組織改編により調達部の中で唯一名称が変わった「調達計画課」を紹介します。

調達計画課の業務内容

(建設工事に係る総合調整)



調達計画課とは

— 調達計画課長から —



(本田課長)

調達計画課は、当局の発注する建設工事の予算の調整やユーザーのニーズの調整、発注計画の作成など幅の広い仕事を行っています。また、工事の実務を担当する建築課、土木課及び設備課の取りまとめ役でもあります。

課長以下11名と決して人数は多くありませんが、実務経験豊かで工事現場はもちろんのこと、国の予算や契約制度にも精通した「一騎当千」の技術者の集合です。一般的な施設とは異なるところの多い「国を守るための施設」の工事のプロフェッショナルとして日夜仕事に励んでいます。



(部隊からのヒアリングの様子)

— 計画調整係長から —

今年4月から計画調整第2係長をしています。現在、現地ヒアリングにおいて各部隊等ユーザーの要望等を伺っていますが、技術的な課題を含め調整等の大変さを実感しています。

しかし、これを乗り越え、ユーザーの要望に合うような施設の建設を目指し頑張っていきます。



(植木係長)

調達部

調達部は、「防衛」の任に従事する使用者の要望に沿った施設の建設を任務としています。

そのため、当該施設的设计・建設に当たって、使用者の立場に立った十分な調整と要望を最大限考慮した設計が不可欠です。さらに、工事を円滑に進めるため、安全面及び運用面に関する部隊との綿密な調整が重要となります。今後とも、調達部の職員は一丸となってこれらの業務に取り組んで参ります。

平成20年度防衛施設周辺対策補助金等実施計画

東北防衛局における平成20年度防衛施設周辺対策事業の実施計画は、第一次分として、約七十億四千六百万円が承認されました。

事業費別の実施計画額は、左表のとおりです。

事項	件数	実施計画額	備考
障害防止事業	十	一、三一五	
(一般)	八	一、〇六二	
(工事費)	一	一、二三	
(共同受信)	一	一三〇	
騒音防止事業	二、〇八九	二、二二一	
(一般)	十五	六八二	
(住宅防音)	二、〇七四	一、五三八	
民生安定助成事業	十九	九二八	
(一般)	十七	九一八	
(防音)	二	一〇	
道路改修等事業	十五	一、〇三三	
周辺整備統合事業	二	一五二	
周辺整備調整交付金	十三	九四四	十三市町村
移転措置事業(先地整備)	二	四五三	
合計	二、一五〇	七、〇四六	

(単位：百万円)

- 1 各項目の金額は、十万円未満を切り捨てとしている。
- 2 計数は単位未満を切り捨てで整理しているため符合しない。

職場を紹介します

― 若手職員から 所属する部署を紹介 ―

今回は、上述の防衛施設周辺対策補助金等実施計画に関連して、周辺環境整備課の若手職員の登場です。

企画部周辺環境整備課

柴田 祐輔

周辺環境整備課で勤務している柴田です。

当課では、演習場や飛行場があることにより周辺住民の生活に影響を及ぼす障害を防止・軽減又は緩和するため、地方自治体が行う河川や防砂施設、道路、農業用施設や消防施設など様々な施設の整備等に対して補助金を交付し、また、防衛施設の設置、運用等により特に配慮する必要があるとして指



(会議に参加している様子)

定された「特定防衛施設関連市町村」に対しては、公共用施設の整備に使用できる交付金の交付を行っています。



(道路改修事業の現場)

私は道路係に配属されています。現在、地方自治体の行う道路改修等事業に対して補助金を交付するための一連の事務手続きを担当しています。事業内容の審査では、土木に関する専門的な知識も必要となるため、上司の指導を仰ぎつつ日々勉強と業務に励んでいます。補助金等の事務手続きは自治体の方々にとって難解な点も多く、少しでも円滑な手続きが進められるよう親切的な説明を心がけ、資料等の充実にかを入れているところです。

不慣れなところも多くありますが、それも自分が成長できる機会だと思っ

海上自衛隊・大湊地方隊

「ちびっ子・ヤング大会」等



(護衛艦「ちくま」から望む釜臥山)



(艦艇公開)



(ピクルス・パセリと記念写真)



(体験航海)



(多くの人出で賑わう水源池公園)

6月7日(土)、海上自衛隊大湊地方隊が主催する「ちびっ子・ヤング大会」及びむつ商工会議所主催の「大湊海軍祭」が同時開催されました。このイベントを東北防衛局の若手職員2名が突撃取材。

「ちびっ子・ヤング大会」の会場である大湊基地では、護衛艦「ちくま」の体験航海や護衛艦「はまぎり」の艦艇公開が行われ、また、水源池公園の大湊海軍祭の会場では大湊音楽隊などによる演奏会、名物「海軍カレー」の販売、各種ゲームコーナーが用意されるなど、子供や家族など約3,000人を超える市民が訪れました。

— 若手職員の感想 —

・局総務課職員(松村)：

「大湊地方隊と地元むつ商工会議所が一体となった催しを楽しむ市民の方々の様子は、さすが基地の町＝むつ市ならでは」、「住民等との良好な関係の構築と継続、その地道な努力が信頼関係の重要な要素であると改めて実感しました。」

・三沢防衛事務所職員(橋本)：

「隊員の家族の方も参加していたようで、父親、母親の自衛官としての凛々しい姿を子供に披露する良いきっかけ」、「地元住民と自衛隊がお互いに良好な関係を築いていると感じました。」



海上自衛隊大湊地方隊

海上自衛隊大湊地方隊は、津軽海峡と宗谷海峡を挟む日本海側、太平洋側ともに青森県以北の我が国周辺海域を担当区域として、防衛、警備及び災害派遣、各種救難活動を主な任務としています。

また、大湊地方隊は、大湊地方総監部(むつ市)、第45掃海隊(函館)及び第1ミサイル艇隊(余市)等により編成されています。



大湊地方総監部は、独自に製作するラジオ番組「海上自衛隊アワー」(FMむつ)として、海上自衛隊員の特技から趣味等や業務内容等のバラエティーに富んだ内容を紹介しています。



北洋館は、大日本帝国海軍大湊要港部の水交社(海軍士官の社交場)として大正5年に完成、外装に釜臥山の石材を用いた洋風建築物です。昭和54年には日本建築学会から大正・昭和期の名建築の一つとして選ばれています。

高山外国人避暑地



仙台市中心部から東に車で三十分程走ると、陸上自衛隊多賀城駐屯地のある多賀城市の隣に七ヶ浜町がある。七ヶ浜町の菖蒲田海岸から表浜の方角に望むと、その先に松林に囲まれた避暑地、『高山外国人避暑地』がある。

この外国人避暑地は、地図にも載っておらずあまり知られていないが、外国人の間では「山の軽井沢、湖の野尻湖、海の高山」と日本三大外国人避暑地の一つと称され、今もなお豊かな自然と静けさが続いている。

沿革を調べてみると、明治21年(1888年)、第二高等学校(現東北大学)の英語教授だったハーレル博士が狩猟の際にこの地を発見、次いで東北学院第二代院長のシュネーダー博士が好適の避暑地として在仙外国人を勧誘し、翌年に7棟の別荘を建築したのが始まりという。明治40年に当時の七ヶ浜村と別荘の持ち主である外国人との間で『999年間の地上権設定』が結ばれ、その後、住民が増えるにつれ土地が追加され、現在では46棟の別荘が建っている。

管理人の坂本利夫さんは、「祖父、父、私と三代にわたり管理をやってきました。来日する人は、最初は学校の教師や宣教師等だったようですが、その後、戦前においては、各国の在日大使館員等が多かったようです。近年は一般の欧米人、特に北欧人が多いですね。」と、当地の様子を語ってくれた。

昔は通信及び交通も不便だったので、母国を離れ、各地に散らばって生活をしている宣教師等の外国人にとって、年一回当地に集まって交流を深める重要な場所であったようである。



(大正時代の別荘の様子)

ところで、七ヶ浜町は、その名前の由来が湊浜・松ヶ浜・菖蒲田浜・花渕浜・吉田浜・代ヶ崎浜・東宮浜の七つの浜をもつ集落があったことから分かる通り、三方を海に囲まれ多くの自然が残る風光明媚な町である。

その浜の一つ湊浜緑地公園の隣に「御殿崎」がある。かつては鴻ヶ崎、松ヶ浦島、江観台とも呼ばれた小さな岬である。この「松ヶ浦島」の地名は、平安時代、京の都まで知られ、多くの大宮人や歌人が和歌の歌詞に詠み、清少納言が「枕草子」に「島は浮島、八十島、水島、松ヶ浦島・・・」と記すなど憧れの景勝地であったようだ。また、仙台藩主・伊達政宗も当地の景勝を愛し、避暑地として仮御殿を設けたことから、「御殿崎」と呼ばれるようになったという。そして現在、高山外国人避暑地から歩いて十分ほどのところの海辺には、毎年夏には涼を求めて海水浴客などが訪れる。



(御殿崎)

平安の昔から伊達政宗の時代、更には明治時代そして今と、当地のすばらしい景観を愛し豊かな自然に親しむ人々の心は、いつの時代でも、また、国籍は違っても変わらない。高山外国人避暑地の地上権が消滅する九百年後も、自然を慈しみ平和で国際交流の豊かな時代が続いていることを願っている。

(企画部施設取得課結城係長からの寄稿)

編集後記

「東北のかなめ」第4号は、6月14日に発生した「岩手・宮城内陸地震」(自衛隊災害派遣と東北防衛局の技術支援)を緊急掲載。また、「米軍車力通信所隊長ハンター大尉の交代」、新たに「調達部ってこんなところ」(調達計画課)、「防衛セミナー開催(秋田)」のお知らせ等を取り上げました。

今後とも、東北管内における自衛隊や米軍の関連記事等を通して、身近な「防衛」についてご紹介していきます。

なお、広報編集委員一同、今般の地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、早期の復興を心よりお祈り申し上げます。

- INFORMATION -

防衛問題セミナー開催

— 国際平和協力活動 —

「防衛」について身近に考えてみませんか！

東北防衛局では、平成20年8月25日(月)の18時から秋田市において、「国際社会における日本の役割」(国際平和協力活動による平和への貢献)と題して防衛問題セミナーを開催します。

講師等は東北防衛局総務部長、陸上自衛隊東北方面航空隊長です。多くの方のご来場をお待ちしています。

詳しい開催内容については、地方調整課(Tel 022-297-8212)にお尋ねください。また、左のポスターを東北防衛局ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

東北防衛局ホームページ <http://www.mod.go.jp/rdb/tohoku/>

イベント情報

— 東北の自衛隊の広報行事 —

自衛隊(東北管内)が今後予定している広報行事等は次のとおりです。是非、見に来てください。

開催日	イベント名	開催場所	問い合わせ先
平成20年8月3日(日) ～6日(水)	秋田駐屯地夏祭り	秋田駐屯地	秋田駐屯地広報室 018-845-0125 (内線:208)
平成20年8月6日(水)	八戸駐屯地納涼盆踊り	八戸駐屯地	八戸駐屯地司令業務室 0178-28-3111 (内線:3807)
平成20年8月9日(土)	福島駐屯地夏祭り	福島駐屯地	福島駐屯地広報室 024-593-1212 (内線:204)
平成20年8月21日(木)	青森駐屯地盆踊り大会	青森駐屯地	青森駐屯地司令職務室 017-781-0161 (内線:370)
平成20年8月22日(金) ～24日(日)	展示訓練	石狩湾	海上自衛隊大湊地方総監部広報係 0175-24-1111 (内線:2304)
平成20年8月24日(日)	第54回松島基地航空祭	松島基地	第4航空団監理部広報班 0225-82-2111 (内線:211)
平成20年8月29日(金)	北部航空音楽隊演奏会	つがる市役所前 (松の館)	つがる市役所総務課 0713-56-2111
平成20年9月6日(土)	八戸航空基地祭	八戸航空基地内	海上自衛隊第2航空群広報室 0178-28-3011 (内線:3211)
平成20年9月7日(日)	第40回三沢基地航空祭	三沢基地	第3航空団監理部広報班 0176-53-4121 (内線:3211)
平成20年9月14日(日)	秋田駐屯地56周年記念行事	秋田駐屯地	秋田駐屯地広報室 018-845-0125 (内線:208)
平成20年9月27日(土)	音楽フェスティバル	仙台サンプラザホール	東北方面総監部広報室 022-231-1111 (内線2668)
平成20年9月27日(土)	市民とのふれあいコンサート	下北文化会館	海上自衛隊大湊地方総監部広報係 0175-24-1111 (内線:2304)
平成20年9月28日(日)	東北方面隊創隊48周年記念行事	霞目駐屯地	東北方面総監部広報室 022-231-1111 (内線2668)

8月9日、10日の二日間、横須賀地方隊が仙台港・石巻港で展示訓練を行います。(4ページをご覧ください。)

※事前の申し込み、入場整理券等が必要なイベントもありますので、お出かけの前に問い合わせ先にご確認ください。